

平成 23 年度

業務実績報告書の概要

I 法人の概要（P1～）

役員、学部等構成、学生数・教職員数、基本目標、機構図等

II 全体的な状況（P4～）

法人等の概要、全体的な計画の進捗状況、評価の項目(特記すべき取組等)

III 項目別の状況（P8～）

年度計画に対する項目ごとの実施状況等 計 229 項目

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（154 項目）
- 2 法人の経営に関する目標（49 項目）
- 3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標（15 項目）
- 4 その他業務運営に関する目標（11 項目）

IV その他の記載事項（P46～）

予算、収支計画、資金計画の実績等、別表（学生の状況）

V その他法人の現況に関する事項（P51～）

入学者、卒業・修了者、資格免許の取得、外部資金の受入状況等のデータ

公立大学法人静岡文化芸術大学

1 全体的な状況

《全体の概要》

- 平成 22 年 4 月 1 日に学校法人を解散し、大学運営を公立大学法人に移行して、2 年次の業務を執行（当法人及び本学に相応しい運営体制・業務執行の構築）
- 中期計画の達成に向けて、自己点検・評価の結果等を踏まえ、本学の将来を見据えた具体的な取組方針等を作成し、重点的な事業を実施

《平成 23 年度の主な取組のポイント》

- 教育課程改正の基本方針を作成し、平成 27 年度からの実施に向けた取組みに着手
- 平成 22 年度に変更した入試制度を検証し、本学に相応しい学生確保対策の実施
- 学生のキャリア形成及び進路支援の充実・強化
- 中期計画に掲げる重点目標領域研究の推進
- 教職員の協働体制による大学運営の構築及び F D・S D 活動の推進

大学の教育研究等の質の向上

教育研究、学生支援

- 教育課程の改正への取組
- 英語及び中国語教育の充実
- 学生確保対策の充実
- 学生への学習支援の実施
- F D 活動等による授業改善の推進
- 重点目標領域研究の推進
- キャリア形成及び進路支援の充実強化
- 卒業生への教育成果等に係る調査の実施

地域貢献

- 地域との連携・貢献事業の実施
- 地域の大学及び高校との連携の強化
- 県・浜松市等の施策形成への貢献

国際交流

- 国際交流基本方針等の策定
- 海外協定締結校等との交流の促進
- 多文化共生社会の実現への支援

法人の運営

- 組織・運営体制の構築
- 内部統制機能の構築
- PDCA 手法による執行

自己点検・評価

- 点検結果を踏まえた改善策の実施
- 広報活動の充実強化

その他

- 施設保全システムの構築
- 節電対策の実施
- ハラスメント対策の推進

2 項目別の状況

(1) 大学の教育研究等の質の向上に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

① 教育・研究活動

ア 本学の特色ある教育内容の充実と一層の教育効果の向上を図ることを目的とした学部の教育課程改正の基本方針（教養教育の充実、学部・学科の融合の明確化、社会的・職業的自立を高める教育等の7項目）を作成し、平成27年度からの実施に向けた具体的な取組みを開始した。（No.1、7）

また、大学院にあっては、専攻分野の明確化等を図るための教育課程の改正に着手した。（平成25年度からの改正予定）（No.2、7）

イ 本学が求める人材育成をより効果的に達成するため、デザイン学部・学科の再編成の検討をした。（No.1）

ウ 今後の教育課程の改正及び進路支援方策等の参考に資するため、卒業生及び進路先企業に対して、卒業後の就業状況及び教育の成果に関するアンケート調査を実施した。（No.3、4）

エ 平成22年度に変更した入試制度の検証と分析を行い、指定校制推薦入試を廃止や入試科目の一部変更等をした。

また、入試制度や教育研究内容等の効果的な周知を図るため、「大学の案内」冊子等の内容を充実するとともに、大学ホームページのリニューアル化に向けた取組みを開始した。（No.5）

オ 英語及び中国語教育の充実等を図るため、習熟度別クラス編成による英語コミュニケーション授業の試行的な実施、学生がインターネットによって学内外で学習できるシステムを導入した。（No.6、10）

カ 教育評価委員会及びFD推進委員会を統合して教育・FD委員会を設置し、授業方法及び成績評価方法等の検証をするとともに、改善策の検討をした。（No.10、15）

キ 教務等に係る戦略的なITシステム（ワーキング・グループの設置）の検討及び図書システム等の更新計画を作成した。（No.13）

ク 図書等の計画的な整備を図る指針となる「静岡文化芸術大学資料収集方針」を作成した。（No.13）

ケ 本学の3つの重点目標研究領域（ユニバーサルデザイン、アートマネジメント及び多文化共生を含めた文化政策）に係るプロジェクトの初年度として、資料収集及び調査等を実施した。（No.21）

コ 新たに研究推進委員会を設置し、学内特別研究費に係る配分方針を明確化するとともに、その研究成果の評価方法を作成し、平成24年度から試行的に実施することとした。（No.21、22、40）

② 学生支援

ア 全学的な担任制又はチューター制の導入を検討するとともに、オフィス・アワー

の活用方法の実態調査をした。(No.16)

イ 静岡県内の企業からの寄附を受け、本学独自の学習支援に係る奨学金を支給した。(No.16)

支給対象人数 9人、支給額 年30万円/人(総額:270万円)

ウ 東日本大震災により被災した学生に対して、学納金の減免を行った。(No.18)

減免対象人数 2人 入学金及び授業料の減免

エ 学生生活実態調査にて学生から要望があった図書館の開館時間の延長を試行的に実施するとともに、防犯対策(機器の設置等)を実施した。(No.18)

オ 交換留学生等を対象にした日本語能力向上のための課外授業(週4回)を実施した。(No.19)

カ 進路支援等に係る全学的な組織として進路委員会を設置するとともに、進路支援等を統括する進路部長の職の設置をした。(No.3、20)

キ 企業訪問等を担当する専任職員を配置し、就職先の開拓及び企業からの情報収集等を実施した。(平成23年度の企業訪問数:411社・団体)(No.20)

ク 静岡県内企業を中心とした約100社と本学の役員・教職員との就職情報交換会を開催し、情報や意見交換等を行い、本学への理解及び相互の交流を図った。(No.20)

ケ 3年次生全員を対象に個別面談を行い、電算システムによる進路状況の管理をするなど、きめ細やかな相談・支援を実施した。(No.20)

コ 4年生の就職内定者が、3年生に対して主体的に就職活動のアドバイス等をする環境整備の検討を行い、試行的に実施した。(No.3、20)

③ 学生確保

県内外の入試説明会等に積極的に参加して説明するほか、高校長経験者である3人の学生募集担当参事等による県内外の高校、予備校及び美術研究所等を訪問し、入学者受入方針や大学内容等の説明を精力的に実施した。このような取り組みをした結果、6.04倍の倍率の志願者を確保することができた。

なお、県外出身者の入学者が急増していることから、今後、学生確保の広報等の見直しや当該学生の意向を踏まえた就職先の確保対策が必要となる。

県外出身入学者 22年度 104人(31%)、23年度 192人(56%)、24年度 192人(56%)

④ 地域貢献

ア 公開講座・公開工房、薪能、室内楽演奏会等を開催し、本学教員・学生の教育研究成果の情報発信を積極的に実施した。(No.28)

イ 静岡県、浜松市及び浜松商工会議所等と連携を図り、各機関が主催する国際イベント等に積極的に参画した。また、教員が静岡県等の各種審議会委員等に就任し、行政の施策形成へ参加や協力をした。(No.28、29、30)

委員等の就任状況:国 11、静岡県 42、浜松市 33、その他 53、合計 139件

ウ 西部高等教育ネットワーク会議及び三遠南信地域大学シンポジウムへの参画及び静岡県立大学との情報交換の実施など、地域の大学との連携・交流を図った。

また、高等学校との情報交換会を開催するなど、高校関係機関との入試等に係る情報提供や収集を行った。(No.31、32)

⑤ 国際交流

- ア 国際交流基本方針(改定版)を作成し、国際交流を大学間・学部間・教職員間の3段階で実施する方法、教員・学生の派遣や受入体制及び国際交流推進組織の設置などの具体的な検討をした。(No.33)
- イ 多文化共生社会の実現に向けたワークショップや学習支援を実施するとともに、外国人学校との連携の充実強化を図った。(No.34)

(2) 法人の経営に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

① 法人運営

- ア 経営と教学の役割を分離し、経営は理事長、教学は学長のリーダーシップのもとに役員会等の機能を発揮しており、役員及び主要な教職員により構成する大学運営懇談会を毎月開催し、重要な課題事項等の協議を行い、その方針決定等をしている。(No.35、36)
- イ 学内の各種委員会の効率的かつ効果的な運営を図るため、委員会の統廃合及び委員数の見直し等を行った。また、委員会の運営等に当たっては、教職員の協働体制による執行に努めている。(No.36、37)
- ウ 大学の運營業務を目的別に体系化した施策体系図を作成し、これに基づいた事業別予算執行管理の電算システムによる業務執行をしている。(No.36、48)
- エ 学外からの意見を大学運営に取り入れるため、学外の有識者等により構成する参与会を2回開催し、意見交換会をした。(No.38)

② 経営及び業務執行

- ア 監事、会計監査人、法人職員による監査(三様監査)の機能及び役割分担の明確化をするとともに、3者による意見交換会を開催し、連携体制を図っている。(No.39)
- イ P D C Aサイクルの手法による業務執行の構築を図っている。(No.44、45)
- ウ S D活動の一環として、事務職員が実施する研究・研修に対する助成制度を創設した。(No.44)
- エ 事務職員の中期計画な採用計画及び法人採用職員と県等の派遣職員の役割分担を作成し、この計画に基づいた採用又は職員配置等をしている。(No.42)
- オ 消灯、空調管理の徹底、電源オフの励行及び節電リーダによる啓発活動の強化などの節電対策を実施した結果、夏季における消費電力を対前年比で9.6%削減した。(No.48)
- カ 大学運営に支障のない範囲内での講堂や講義室等の施設の貸出を実施し、収入の確保に努めた。(平成23年度収入額 4,959千円) (No.49)

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

① 自己・点検評価

- ア 平成 21 年度に実施した自己・点検評価において、改善を要する点として挙げられた図書館の開館時間の延長などの項目への対応をした。(No.50)
- イ 自己・点検評価結果については、平成 23 年度の年度計画、予算等に反映している。(No.50)
- ウ 平成 24 年度に実施する全学的な自己点検・評価について、本学の特色を生かした実施計画を作成した。(No.50)

② 広 報

- ア 広報対象の地域及び広報媒体等を見直し、初めて愛知県三河地区への新聞広告等を実施した。(No.53)
- イ 数多く取り上げられている本学関係の新聞記事を取りまとめた「ニューズレター」を定期的に発行し、高校関係機関等に配布している。(No.53)
 - ※ 平成 23 年度発行回数 4 回
- ウ 入試制度や教育研究内容等の効果的な周知を図るため、「大学の案内」冊子等の内容を充実するとともに、大学ホームページのリニューアル化に向けた取組みを開始した。(No.53)

(4) その他業務運営に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

① 施設管理

- ア 施設の計画的な維持修繕等を図るため、本学独自の施設管理業務支援の電算システムによる施設・設備の長期保全計画の策定に取り組んでいる。
 - また、バーコードシステムによる備品管理を行い、年に 1 回、学内すべての備品の棚卸を実施している。(No.54)
- イ 消灯、空調管理の徹底、電源オフの励行及び節電リーダーによる啓発活動の強化などの節電対策を実施した結果、夏季における消費電力を対前年比で 9.6%削減した。(No.54)
- ウ 学生等の安否情報システムに係る他大学の実施状況調査を行い、その導入及びシステムの仕様等の検討をした。(No.55)

② 人権の尊重等

- ア 人権の尊重及びハラスメント防止を図るため、ハラスメント防止委員会を設置した。(No.57)
- イ ハラスメントの相談体制の明確化を図るとともに、学生及び教職員に対する啓発及び教職員を対象とした研修会を開催した。(No.57)

3 項目別評価の状況（全体）

年度計画に記載されている 193 項目について、229 項目にわたる取組みをしたところである。この 229 項目を 57 項目に体系化し、その自己評価を実施した結果、A が 16 項目、B が 41 項目となっており、概ね計画どおり実施した。

（平成 23 年度）

ランク	A	B	C	D	計
項目数	16	41	—	—	57
比率	28.1%	71.9%	%	%	100.0%

- A：計画を上回って実施している項目
- B：計画を十分に実施している項目
- C：計画を十分には実施していない項目
- D：計画を大幅に下回っている項目

○自己評価に関する課題と対応

平成 22 年 7 月に静岡県が中期目標を策定し、同年 10 月に中期計画を作成したところである。

平成 23 年度の年度計画への対応については、役員及び教職員が一体となって取組みをした結果、その計画を概ね達成できたと考えている。一方、平成 23 年度に検討を行った項目については、平成 24 年度に継続的に検討等を行い、計画の作成又は事業着手等に向けた対応をする必要がある。

平成 24 年度においては、これまでの進捗状況及び自己点検評価結果等を踏まえて年度計画を策定したところであり、中期計画の達成に向けて、着実な取組みを進めていくこととしている。

なお、平成 24 年度事業の実施に当たっては、教育課程の改正など重点的に実施する事業方針を定め、優先度の高いものから計画的に取組みをしていくこととする。